

パーリ学仏教文化学会代表挨拶

岡本： 続きまして、パーリ学仏教文化学会を代表し、大阪大学大学院文学研究科教授、パーリ学仏教文化学会理事の榎本文雄より一言ご挨拶申し上げます。

榎本： ご紹介に与りました、榎本です。パーリ学仏教文化学会は、最近亡くなられました愛知学院大学の前田恵學先生が創立された学会でありまして、現在は四天王寺大学の名誉教授で、四天王寺管長の奥田聖應先生が理事長をなさっておられます。ただ、本日は奥田理事長が所用で来られませんので、編集担当理事の私、榎本が一言ご挨拶を申し上げます。

本学会は、一方ではパーリ仏教を中心とした初期仏教ないし、原始仏教の文献学的研究、他方では本日のシンポジウムのように、パーリ語を用いる東南アジア諸国の仏教の実地調査を始めとする社会学的な研究などを行う研究者がお互いに研究上の協力をし、それから、この学問の向上発展を期するというを目的として設立された学会でございます。

本学会では年に一度、学術大会とは別に研究例会というのを催しておりまして、本日は只今、桂先生からご挨拶をいただきましたように、龍谷大学アジア仏教文化研究センターとの共催で、「アジア仏教の現在 III」というタイトルの国内シンポジウムをパーリ学仏教文化学会の研究例会としても開催させていただくことになりました。実は桂先生もパーリ学仏教文化学会の理事を長らく務めていただいております。桂先生を始めとしまして、龍谷大学アジア仏教文化研究センターにおかれましては、共催の申し出を快く承諾いただき、誠にありがとうございます。関係の方々のご尽力に心より感謝申し上げます。本日のパネリストやコメンテーター、更に司会の先生方におかれましては、有意義で実り豊かなシンポジウムになりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。また、フロアの方々からも活発なご質問やご意見を賜れば幸いです。

以上、簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。